

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

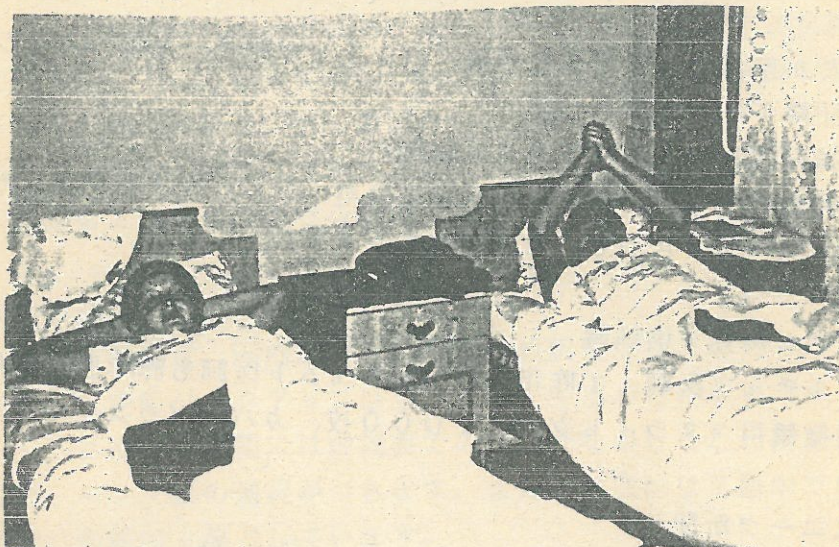
ポレーシェ

・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1993.3.31 No.16

医薬品

病院に到着



薬はこの子たちのもとへ届けられました（ジトーミル州立子供病院にて）

昨年末にワクチン4万人分を届け、さらに今年1月には粉ミルク6.6トンを船便で送りました。そして3月10日成田発SU576便で17回目の救援物資輸送を行いました。今度送ったものも、全て現地医療機関から要請のあった医薬品ばかりで、今回は特に昨年医療研修で来日したヴァロージャさんの病院の物資も含まれています。またモスクワからウクライナ共和国ジトーミルまでの輸送は通販生活のカタログハウス社のお世話になりました。

尚、今年一月に送った粉ミルク等を積んだ船は到着が遅れ、3月9日にイリチェフスク港（オデッサ近くの貨物専用港）に到着したとの現地からの連絡がありました。

前回の呼びかけでカンパを送っていただいた皆様、また救援・中部の維持会員に新たに入会して下さった皆様、大変ありがとうございました。4月以降の救援プランについては現在策定中で正式決定次第この誌面でご連絡させていただきます。どうぞご協力下さい。またボランティア預金にも応募する予定です。

救援物資の送り先と内容(オ17次)

○バラノフカ地域病院 (グリシュチェンコ院長：昨年日本で医師研修を受けたヴァロージャさんが勤務している。)

抗生物質 (注射液二種類計1000本)

血液分析器試薬 (7種類：各4~500人分)

尿検査用試験紙 (5000枚)

○ジトーミル市立小児産婦人科病院 (バシエック院長、前回ワクチンを送った所)

血圧降下剤 (8000錠)

脳神経障害治療剤 (5000錠他)

注射器 (はしかワクチン用6000本、BCGワクチン用26000本、

前回送付分と合わせると40000本送付)

○ジトーミル州立子供病院

(アルチュフ医師：1昨年来日、同チュムト医師も昨年医療研修で来日)

顕微鏡用 (スライドグラス1000枚、カバーグラス10000枚)

○ヴィスニーク新聞社

胆石治療剤 (1000錠)

メッセージカード、カレンダー、雑貨品

以上 合計5.1箱 224万7千円相当

ECC山口勇理事長が亡くなりました

救援・中部に唯一企業として参加しているECCの山口理事長が3月10日亡くなりました。ECCは、私達への支援協力の他に企業独自でも海外に救援物資を送るなどの実績があります。何の干渉も制約もせず、私達の活動を信頼し応援して下さった山口さん、ありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。山口さんのお気持ちが最大限被災者の人々や子供たちに届くようこれからも努力して参ります。



医療関係者の皆様へ

～ウクライナ医師研修協力のお願い～

私達は3年前から、チェルノブイリ原発事故の被災者を人道的立場で救援するために活動して参りました。現地の実状に即し、現地の要望を聞きながら進めています。その中で現地の医療レベルの向上の必要性が指摘され、現地医師の日本での医療研修が大きなテーマとして浮かび上がりました。

そして昨年6月、名古屋の協立総合病院、南生協病院、広島原爆対策協議会健康増進センター、十河病院などのご協力によりウクライナから3名の医師を招待し研修して受けてもらうことができました。そして現地ではこの研修が極めて高い評価がされ、この事業の継続が強く要望されています。

こうした状況をふまえ、私達は今年も現地医師の医療研修を日本で行いたいと考え、新たに医師を受け入れて下さる病院を探しています。どうぞご協力をお願いします。

医師の受け入れ条件について

- (1) 日本への往復旅費、国内旅費、滞在費、通訳費用など滞在中の生活面で必要な資金的バックアップは全て救援・中部が行いますので、研修指導して下さる医療機関には金銭面でのご迷惑をかけることはありません。
- (2) 研修中、ロシア語の通訳がつかます。また現地医師は英語ができることを条件に面接の上選考しています。
- (3) 滞在期間は1カ月ですが、研修期間は短期間でもかまいません。
- (4) 研修期間については、受け入れてくださる病院の都合に合わせ相談させていただきます。また受け入れ医師は、一人でもかまいません。

研修希望の現地医師のプロフィール

- (1) アンナ・ゴンガルスカさん (女性)
1954年生まれ。専門は内科、心臓病。
1977年、チェルノビツキー医科大学で博士号を受ける。現在ジトームル州立結核療養所の治療部門主任。
- (2) イワン・レスノイさん (男性)
麻酔学。ジトームル市立癌診療所勤務。麻酔について研修を希望。
- (3) ラリーサ・ブレドネヴァさん (女性)
感染症。ジトームル市立第一総合病院勤務。著書あり。
肝炎等について診断研修を希望。

あなたが知らされていないこと

【台湾発】

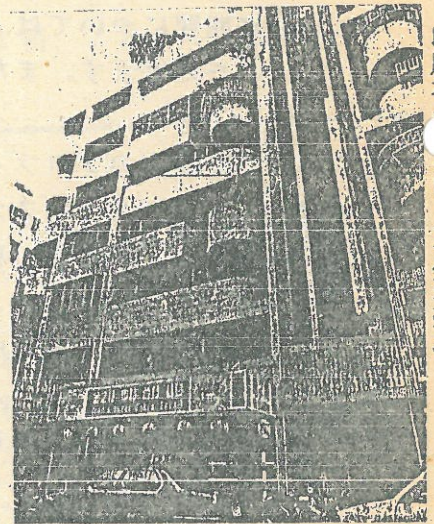
チェルノブイリの10倍の放射線

～アパート住民避難へ～

台湾で民間アパートの放射能汚染事件が起きている。台湾電力の社員アパートの台所やトイレ、寝室などが強い放射線を出している事が分かったのは昨年7月末のこと。更に調べてみると、1983年頃に首都台北で建てられた高級アパートや、銀行などのある雑居ビルが強い放射能を帯びていた。あるアパートの室内では毎時20ミリレム（自然放射線の2000倍）もの放射線を出していた。これは、事故を起こしたチェルノブイリ原発の石棺の近くの10倍もの強さである。驚いた政府が調べると、汚染は次々に発見され、これまで合計10カ所、129戸にまで広がっている。汚染場所も台北だけでなく、台中市にまで拡大した。

原因は建築用の鉄筋に混入したコバルト-60という放射能であることが分かったが、いつどのようにして紛れこんだかは、不明である。恐らく病院が不注意で捨てた癌治療用のコバルト線源か、溶接検査等に使う工業用放射線源が鉄くずと一緒に溶鉱炉で溶かされ、鉄筋に加工されて売られた可能性が高い。この時期に台北市内だけでも数万戸の住宅が建てられており、汚染は更に広がる可能性がある。

汚染の強い民間アパート（40戸）ではこれまで14人が妊娠したが、4名が流産し、1名は先天性心臓欠陥をもって生まれている。他の子供達も病弱で前から問題になっていた。ある家の子供の寝台の枕元では強烈な放射能が検出されたが、この子は朝起きると頭がしびれている、と訴えていた。台中市の民家は鉄扉が強く汚染していたが、この家の主婦は乳ガンにかかっている。同様の事件は1984年にメキシコでも起こっており、このときは幸い数カ月後に発見されて、ビルが取り壊されたが、台湾では既に9年間も人が住んでおり、今なお生活が続けられている。一刻も早く移転する必要があるが、政府や関係者の対応は鈍い。



此處有鋼筋
住戶好擔心!

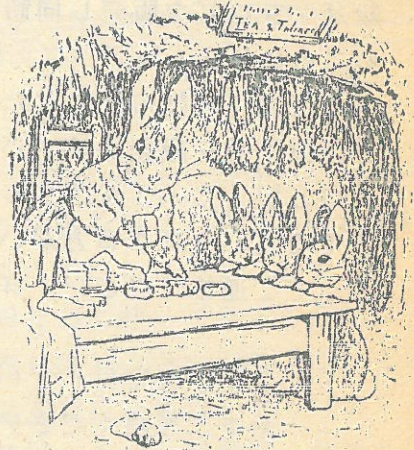
ピーターラビット生誕100年

・・・その自然の惨状（本の紹介）

この施設（イギリス・セラフィールド核再処理工場）は、英国の詩人ウィリアム・ワーズワースが妹ドロシーと共に住んでいたダウ・コテージから程遠くないところにある。絵のように美しいこの地域にはさまざまな種類の羊が放牧され、その愛らしい姿と共にその風景は、今でも挿し絵画家のベアトリックス・ポッターの好む田園風景そのままである。

ところがカンブリア地方で生まれる子羊は放射能に汚染されている。これはソ連で起きたチェルノブイリ原発事故のせいだとされているが、本当はセラフィールドが大量に放射能を放出しているためであり、ここ以外に汚染源は考えられない。子羊やその肉を初めて測定したのは、チェルノブイリ原発事故後数カ月もたってからのことであった。・・・

（「ピーター・ラビットの自然はもう戻らない」より マリリン・ロビンソン著 鮎川ゆりか訳 新宿書房）（挿し絵：ピーターラビットの絵本 福音館）



チェルノブイリ原発の運転再開中止要請を出しました

ウクライナ共和国がチェルノブイリ原発の1, 3号機の運転再開を決めたことについてチェルノブイリ救援・中部では、以下の文章をウクライナ語に翻訳しウクライナ共和国大統領および同最高会議議長に対し送付しました。（以下要約）

私達は、チェルノブイリ原発事故による被災者を人道的立場から救援しています。また私達は史上最悪の事故となったこの事故をきっかけに、核の兵器利用はもちろん、平和利用としての原子力発電所も危険であることから、この地上から全ての核を無くすことも願っています。

しかしながら昨年一旦閉鎖が決まっていたチェルノブイリ原発の1号機と3号機をウクライナ共和国が1993年末まで運転再開することを私達は知りました。原子力発電所の運転再開は、1986年に起きた4号機の大事故を思い起こさせるものですし、運転自体が大事故の可能性をはらんでいます。

従って私達チェルノブイリ救援・中部は貴国に対し、運転再開を中止するよう要請するものです。

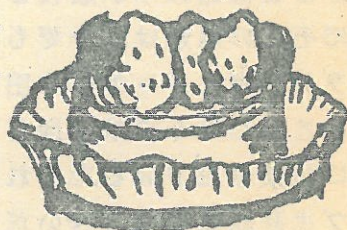
以上

手作りのケーキを寄付してください

～アースデイへのお誘い～

来る4月18日(日)に名古屋市の白川公園(地下鉄東山線伏見駅下車)でアースデイの催しが、行われます。救援・中部でもウクライナの物産品やテレカ、絵はがきなどを販売し同時にカンパなどを訴えることにしました。

そこで、皆様の作られたケーキやクッキーなどの菓子類を販売させていただき救援金に替えたいと思っています。もし名古屋市内や周辺の方でご協力くださる方がいらっしゃいましたらどうぞご連絡ください。詳細は以下の通りです。



1. ケーキを寄付していただける方は、4月16日金曜日までに事務局まで電話でご連絡ください。大きさや数などについてお聞きいたします。当日飛び込みでの持ち込みはお断りする場合があります。(事務局運営時間にご注意を本誌最終ページをご覧ください)
2. お作りになったものは、18日の当日午前10時までに会場の救援・中部テントまで、お手数ですが直接ご持参ください。

声・声・声 ～皆様からいただいたお手紙(抜粋)から～

こんにちわ

チェルノブイリ救援のためご活躍下さっている方々本当にロシアの子供達にも春がくるのが待ち遠しいことでしょう。

私達は夫婦ともに視覚障害者で応援してあげるほどの余裕はありませんが、少しでもお役に立てばと願っています。

政治家の脱税のほんの少しでもまわしてくれればどんなに大きなお金になるかと考えています。

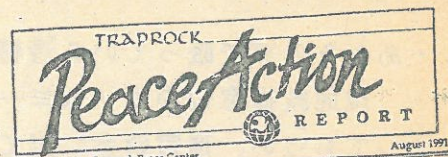
私達も針、マッサージの仕事をしています、不況のせいがお客がぐんと減っています。

お店で買い物した時に少しずつおまけしてもらうお金を貯金箱に入れ災害で困っておられる方々に送っています。

けれどもあなた方も素晴らしいお仕事をされているのを知り少しでも役立てればありがたいです。・・・
(名古屋市在住の方から)

アメリカNGO紹介 トラップロック・ピースセンター

トラップロック・ピースセンターは、1979年軍縮問題の情報を一般伝えるための非営利団体としてマサチューセッツ州ディアフィールドで発足しました。現在環境問題、原発問題などに取り組み「ピースアクション」レポートを通じて広く活動を行っています。
代表：ジム＝パーキンス



by Gail Sandberg
Since June 17, 1991 a group of concerned citizens from various towns in Western Massachusetts has been gathering every Monday night in Chatterbox to discuss concrete requests for the Yankee Nuclear Reactor located in Rowe, Massachusetts.
The immediate reaction to the lightning strike resulted in a town-wide meeting the following night, Monday, June 17th at the Chatterbox Inn. The phone, a radio, have not stopped ringing since.
The number of people who

WHOA, Yankee!!

ニュースレター表紙

＊ ＊ モノを送るということ ＊ ＊ ～誇りと自立 皆様に考えて頂きたいこと～
チェルノブイリ救援・中部では、これまで様々な物資を持って現地を訪れました。そして感じたことは人々が常に誇りを持ち自立をめざしていることです。
現地の女性の服がはっとするような素晴らしい服なので聞いてみるとそれは、自ら仕立てた服でした。自らの食べ物を育て、手作りのものでつつましく自らの家々を飾る彼らの生活は、豊かさの本当の意味を私達自身に問いかけています。
いくらモノを送っても彼らの自立の努力に結びつかないものは、救援とはいえません。なんでも貧しいだろうと安易に考え日本でただ経済的に豊かなだけの結果から生まれた商品、自分がいらぬ古着やモノを送るのは彼らの誇りを傷つけます。自分があり余っているから助けるのではなく、自分に必要なものでもガマンして分け与えるのが、本来の救援なのだ私達自身も謙虚に考えたいものです。救援・中部でも、彼らが作った工芸品などをこれまでに何回も取り寄せて販売しその売上金を現地に救援物資として送り、現地の人々の自立のための模索をしています。(事務局より)

事務局維持会員入会のお祝い

チェルノブイリ救援・中部では、膨大な事務作業をこなすために昨年3月に事務局を開設しました。長期の救援を行うために皆様の維持会員を募っています。今年もさらに救援活動を続けるため入会をお願いします。

- ◎維持会員入会費 1,000円/月
- (一年分まとめた場合 10,000円/年)
- 郵便振替口座：名古屋8-108610
- (* 通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

＊ ＊ お知らせとお願い ＊ ＊

- ・あなたの家で眠っている音響機器はありませんか？

現地救援窓口のヴィスニーク新聞社が経営困難になっています。現地で販売してもらい、運営資金に当ててもらいます。もしいらなくなったラジオ、ステレオ、テープレコーダーなどの音響製品などがありましたら救援・中部まで送ってください。

- ・現地からチェルノブイリ特集英語版「CHERNOBYL HOSTAGES No.4」新着 500円
新たに第4号が現地から到着しました。この売上は全て現地新聞社ジトームルスキーヴィスニークの運営費になります。どうぞ購読ください。

- ・ポレーシェを読んでくださる皆様の宛名を一部変更させて頂きました。

今回号より二重の送付をなくすため宛名管理を統一し、宛名の表現を文字数等の制約から一部変更しました。まだ未整理のため失礼な表現があるかもしれません、ご了承ください。

また前回のポレーシェ (No.15) の送付の際、宛名ラベルが脱落して住所不明のまま10通程が返送されました。まだ届いていない方がいらっしゃいましたらお手数ですがご連絡ください。再送させていただきます。

- ・救援金をお寄せいただいた方には全て事務局より領収書を送らせていただいております。振込用紙に住所氏名等を明記ください、もし領収書不用の方は振込用紙の通信欄にその旨お書きくだされば幸いです。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード 一枚1000円50度数。
- ・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。
- ・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(板東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表:長谷川三知子

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)